

腰痛、ふらつき、全身倦怠感

男性 六十八歳 会社役員

主訴 腰痛、ふらつき、全身倦怠感

現症 約 1 ヶ月前に前立腺手術をする。その手術がうまくいかず、術後ふらつき、腰痛がひどくやっと歩ける状態、尿の出も思わしくなく、クスリは数種類（昇圧剤、安定剤、睡眠剤、利尿剤等々）服用、BD107/72、病院からパジャマ姿で来院する。

所見 「血虚」、腹部の冷えが強い、目がうつろで焦点が定まっていない感あり、天牖(+)、火穴の反応は出ていない。

処置 扁桃、骨盤虚血、帯脈、骨盤部周辺の各処置。施灸は三陰交、内関、中脘、気海。

経過 2 回目 (3 日目) 灸をして、尿の出が良くなってきた。血圧が低くまだふらつく (以前から起立性低血圧あり)。術後、脈がでてくる。BD131/83。

3 回目 (4 日目) 昨日退院した。体調は良くなってきている。今朝起きられたし、歩ける。真っすぐに歩けだした、と。術後 BD127/76。

曰く「前立腺の手術をしてもらったが、どうもあとが悪く、尿の出が反ってわるくなった。腰も痛くなってきたし。そのとき、何種類も薬を出され、ふらつきもあって、立ち上がろうとすると血圧がサッと下がる。だからふらついて、真っすぐ歩けなかった」と。

4 回目 (5 日目) 今朝 BD140/70、血虚はない。左天枢張った感じがある。扁桃、肝実、骨盤部の各処置。クスリのことをそれとなく話す。「クスリは基本的には体にとって異物ですよ。体の中で効いて初めて薬になり、効かなかったら毒です。クスリが治るのを阻害していることもあるんですよ」と。

5 回目 (7 日目) BD112/67。体がだいぶしっかりしてきた。近くの土手を 20 分ほど歩いた。立ち上がりはまだふらつく。血虚なし、左天枢の圧痛あり。これは肝臓の反応になるからクスリが気になる。

8 回目 (12 日目) 腰はだいぶ良くなってきた。血虚もない。お腹の冷えも以前ほどなくなった。扁桃、骨盤、肝実の各処置。術後 BD121/70。曰く「そろそろ仕事に戻ろうかと考えている」と。

12 回目 (42 日目) 太ももから下が熱くなってきたと。下肢に力が入りだしたようだ。血虚なし、左天枢の反応まだある。仕事は午前中だけ行きだした。まだ本調子ではないが、体がしっかりしてきているのがわかる。

考察 この患者で最優先したのが、血流の改善だった。この改善なくして、治ることはないだろうと思った。まず脈状が「血虚」という勢いの弱い空洞があるような脈。それに低血圧に、お腹の冷え、循環無力症の病態と診て、循環系の賦活に焦点を絞った。三陰交、内関、骨盤部それと免疫系強化をまず組み立てる。施灸も加える (三陰交、内関、中脘、気海)。

灸をしまして 3 日目で尿の出が良くなってくる。そして 2 回目の術後、脈がでてくる。血虚から力のある脈に変わった。脈が教えてくれる。体がいい方に歩き出した。それと脈状と腹証が「虚」ということで一致していた。つまり「順の病証」で治りやすいことを示唆していたのだ。そしてこの後、退院されている。本人もよくなってき

て治るのを感じたのだろう。治療を始めて2週間くらい、ほとんど毎日治療して、1ヶ月位で職場復帰が適った。

この症例でもわかるようにいかに循環系の賦活が大事かということ、そして今まで何度か言ってきたが、脈がわかるとそれだけで処置がたてやすいということである。